

1 教育目標

- (1) よく考え 本気で学ぶ子ども
- (2) 元気で たくましい子ども
- (3) 思いやりがあり 助け合う子ども

2 学校経営の方針

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力を身に付けさせるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、「学ぶ喜び」を味わわせる。
- (2) 児童の様子を児童・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3つの視点から総合的に見取り、関係機関と連携しながら、一人一人の特性に適した支援を行う。
- (3) 危機管理の観点から、児童の危険回避能力の育成に取り組み、問題行動や事件・事故の予防に努める。
- (4) 健康教育の充実を図り、地域・家庭と連携して心身共に健康な児童の育成を図る。
- (5) 特別活動や総合的な学習の時間を中心にふるさと学習とキャリア教育を推進し、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを支える人材の育成に努める。
- (6) コミュニティスクールの導入に向けて、地域とともにある学校づくりの一層の推進を図る。

3 今年度の重点目標

(1) 確かな学びを育む	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の実施 ・ねらいの明確化による指導と評価の一体化 ・授業改善による「学ぶ喜び」のある授業 → 先生の授業は分かりやすい 90% ②個々の特性に応じた適切な支援 ・TT、ユニバーサルデザイン、ICT機器を活用した授業の実施 → 各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80% ③主体的な学習習慣の確立 ・家庭学習の時間の確保と学習内容の充実 → 宿題や自主学習への取組 80%
(2) 豊かな心を育む	①学校・家庭における読書活動の推進 ・学校司書との連携による読書指導 → 本を読むことが好きな児童 80% ②いじめ等問題行動の未然防止 ・道徳教育、児童・生徒指導の充実 → 学校生活が楽しい児童 90% ③自分の生き方を考えさせる指導の充実 ・ふるさと学習とキャリア教育の推進 → 将来の夢ややりたい自分がある児童 80%
(3) 健やかな体を育む	①健康的な生活習慣の確立 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の推奨 → 実行した児童 85% ②体力・運動能力の向上 ・体力向上プログラム活用による課題克服 → 新体力テストB以上の児童 40% ③安全・防災教育の充実 ・訓練を通じた危機回避能力の育成 → 安全・防犯・防災知識の定着 95%

4 評価表 評価の「A」は優れている、「B」は良い、「C」は改善の余地あり、「D」は要改善

項目	具体的評価指標	自己評価			学校関係者評価 学校評議員	達成状況 成果○と課題▲
		児童	保護者	教職員		
教育課程	①学習指導要領の実現を目指し、児童や学校の実態、保護者や地域の意見要望等を踏まえた創意ある教育課程を編成・実施した。			A	A	※学校評議員の意見はゴシック体で記載。 ○夏休みに行われていたワークショップを授業の中に取り入れる形で創意ある授業に取り組むことができた。 塙・星の宮の宝を守る会の方の協力により、クラブ活動でも紙飛行機づくりをお願いした。 ○しっかりと目標に向かって、やるべきことを自分なりに考え、行動する姿が見られた。安心した。 ○先生方は、児童の学習意欲を高めるための創意工夫された授業を行っている。
学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させた。 各教科（国・社・算・理・生・外）の学習が好きな児童 80%	A		B		○国語の授業で物語文の心情の読み取りに、対話的な活動を取り入れた。 ○先生の授業も分かりやすく、子供たちも楽しく授業を受けていた。 ○教科により偏りなく苦手な教科をなくし、楽しい授業を期待している。
	②指導と評価を一体化した授業の展開により、「分かる授業」が実践できた （先生の授業は分かりやすい 90%）	A	A	B		○分かる授業の実践のため、先生方はご尽力されている。 ▲行事等に多くの時間を割いたため、全体的に主体的・対話的で深い学びが十分に行えなかった。 ▲いろいろな意識はして授業を行っているが、「深い学び」という点が自分にとっては、難しいところである。 どうするとよいのか、自分でも勉強したい。
	③主体的な学習習慣が確立できた。（家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実、児童の取り組み状況等） （宿題や自主学習への取組 80%）	A	B	B	A	○宿題は忘れずに行うことができていた。 ○学習習慣は身に付いてきている。 ○その子なりに家庭学習も時間を取り、努力していると思うので、認めてあげたい。さらに認め褒めてあげることで、家庭学習に取り組めるとよいと思う。 ▲家庭学習の自主学習が十分に活用されているとは言えない。指導や支援が必要。 ▲学習内容に児童ごとの差があり、児童の中でも学習内容に偏りが見られる。 ▲普段の宿題が手一杯で、自主学習まで手が回らない現状だった。
	④読書活動の充実（学校司書との連携、図書室の積極的な利用）と家読の推奨を実施した。 （本を読むことが好きな児童 80%）	A	B	A		○図書室の積極的な活用や担任のおすすめの本の紹介などをしたことで、本を読む児童が増えてきた。 ○読書集会のような児童が活躍する機会があるのはよいと思った。企画する側だけでなく、参加する側も楽しそうだった。 ○移動図書館の活用を楽しみにしている。 ▲図書室の活用が、タブレットの導入により減った。調べ学習ではない活用方法を模索したい。（並行読書等） ▲児童はタブレットを使って調べ学習をしており、図書室活用回数が以前より減ってきた。
	⑤ H24 から始まった小学校英語教育特区（現 教育課程特例校）の効果について→1～4年が外国語活動を実施してきたことで外国語活動に対する興味関心、表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。	A		A		○コミュニケーションをとりながら、関心をもって楽しく活動していた。 ○小学校で学んだ英語が将来に役立つものとなってほしいと思う。特に益子町は外国人観光客が多く訪れる町でもあるので、町で活躍できる人材となるよう、さらなる語学力を身に付けてほしい。
キャリア教育	①地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めた。 （将来の夢やなりたい自分がある児童 80%）	A	A	B	A	○地域の教育力を活用して、クラブ活動で紙飛行機づくりをお願いした。 ○小宅古墳群見学では、地域の歴史や地域活性に取り組む人々からの学びを得ることができた。 ○校外学習等で、働く人の話を聞く際には、働く人の思いも聞くなどし、キャリア教育につながるよう努めた。 ○夢に向かう姿が想像できる。皆が目標に向かう姿が素晴らしい。 ○益子町や塙・星の宮地区の特徴やこの町に住む人との関わりを大切にし、益子町が好きで、将来の夢をもって学習に励んでほしい。 ▲総合的な学習の時間と上手くからめ、ゲストティーチャーを呼びたいと思った場面があった。しかし、呼ばなかった。手間を考えると、一步引いてしまうところがあった。

児童指導	①「学業指導の充実に向けて」(県教委)に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を適切にしている。	A	A	B	A	○丁寧な言葉遣い、礼節等、普段の生活を通し、手本となるよう心掛けた。現在も継続指導中である。 ▲児童によっては規範意識に差があり、基本的な生活習慣のほか、規範意識、公共心の育成が必要と感じた。 ▲児童同士での呼び捨てが増えたように思える。気付いたときには注意はするが、全校体制で改善する必要があると思った。言葉の乱れは、教室の乱れ等にもつながると思う。
	②教育相談や児童の観察を定期的に行い児童の小さな変化を見逃さず、問題行動の早期発見に努め、児童指導の充実が図られた。 (学校生活が楽しい児童 90%)	A	A	B		○児童観察は日々心掛けてきた。十分と言えない面もあったが、教育相談が形式化しがちな面があったので、様々な質問を考え、より本音を引き出すよう心掛けた。 ○常に児童の情報を共有し、対応を検討できている。 ○楽しい学校と思える環境が実現されている。更に継続をお願いしたい。 ▲教育相談週間に行事が重なり、予定どおりに相談を実施できなかった。
	③組織的に児童指導に取り組み、関係機関と連携しながらチームで支援ができた。	A	A	B		○行政の専門機関、SSW、SCと情報を共有し、要支援の児童・家庭に対し適切な支援が実施できていると思う。
特別支援教育	①全職員の共通理解の下に、校内支援体制を適切に整備し、特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行った。(個々の特性に応じた適切な支援、ユニバーサルデザインによる授業の実施、個別の指導計画、関係機関等との連携)			B	A	○個々の特性に合わせた教育活動が実施できていると思う。特に配慮を要する児童の対応には、全職員の理解のもと実施され、結果が出ていると思う。 ○個別の支援が必要な児童については、スマイル教室や特別支援学級の担当と連携を取りながら支援を行うことができた。 ○児童の理解を深めながら、適切に授業を行っていた。 ○時代に合った個性の伸ばし方が実現されていた。 ○学校と家庭、関係機関等との連携を図り、児童一人一人に目を向けた教育をさらに望みたい。
保健管理	①児童の心身の健康的な生活習慣確立のために適切な指導管理を行った。 ※日常の健康観察、健康診断環境衛生検査等			A	A	○月例環境衛生検査を毎月実施することで、児童の意識も変わってきていると思う。 ○学級活動で、学校医からの歯の指導があった。日常生活習慣については、継続指導中である。 ▲月ごとの衛生検査チェック内で声掛けをしているが、普段からも声掛けを行っていききたい。特に、ゲーム等による夜更かしがないかチェックをしていきたい。
	②感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、健康管理と環境整備を実施し、感染症予防の徹底を図ることができた。			B		○コロナは依然として存在しているものの、予防のための環境整備、保健指導などのおかげで大きな発生にはなっていないことに感謝している。 ○新型コロナウイルス感染症対応が5類に移行したことで、普段の生活での感染症対策は以前よりは緩くなっているが、給食時は感染症対策を徹底継続している。 ○教室内の換気、窓の開け閉めも適切に行われ、加湿器も設置され、感染症対策に努めている。
	③体力向上プログラムを活用し、個に応じた体力づくりの推奨に努めた。 (新体力テストB以上の児童 40%)			B		○エキスポパートナーチャーターや1分間運動、体力アップカードなど多様なアプローチで体力づくりを実施することができた。 ○数値にこだわる子供がたくさんいてくれることがうれしい。興味をもつことは大切だと思う。 ○近年、子供の体力不足が問題とされているので、休み時間など積極的にボール投げ、なわ跳び等、遊びを通して体力づくりができるとよい。 ▲今年度は体力向上プログラムだけではなく、栃木県で作成しているライジング広場を活用にしたが、アナウンスが足りなかったと反省している。クラスルーム等を活用し、啓発していきたい。 ▲休み時間の自主的な体力づくりが、十分に浸透していなかった。
安全管理	①全職員の共通理解の下に、教職員及び児童生徒の安全対応能力の向上に努めた。 ※危機管理マニュアルの活用、安全点検、避難訓練、防犯教室、交通安全教室 (安全・防犯・防災知識の定着 95%)	A	A	A	A	○避難訓練や防災教室では、児童の真剣に取り組む姿が見られた。 ○迅速な修繕や予防的な設備の購入などにより危険や事故を予防できていると思う。 ○安全点検結果、すぐに修繕が行われている。 ○避難訓練に、児童は真剣に参加できた。 ○年間行事として訓練されている。実際に災害が発生した際、保護者のお迎え、連絡先の確認等どうあるべきか、再確認もお願いしたい。
	②児童の登下校の安全確保に努めている。 ※スクールガードとの連携	A	A	A	A	▲横断歩道の横断時、手を挙げる行動がまだ十分ではない。6年生が手本となるよう、声掛けを続けたい。

組織運営	①学校経営方針の具現化のために校務分掌や各主任の役割が適切に機能するように努めている。(全職員の参画意識、良好な人間関係と協力体制、情報管理等)			A		○協力体制がよい。 ○困っていると声を掛け合って助け合っている。
	②効率のよい業務を行うよう努めている。 (超過勤務時間 月80時間以下)			B	A	▲努めてはいるが、今のままだと時間が足りないと感じる。 ▲目標の月80時間以下という時間は過労死ラインなので、目標をもっと少なく設定するとよい。 ▲職員同士で改善に向けた話合いの時間があるとよい。話合いをして共通理解を深め、さらに継続的な声掛けがあるとよいと思う。
研修	①学校課題解明のための授業研究を計画的に行い、授業改善に努めている。			B	A	○計画的に研究が進められている。
情報提供	①学校に関する様々な情報が、保護者や地域住民に、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量を提供している。 ※学校だよりや学年だより、学校ホームページの公開等		A	A	A	○ Google クラスルームで写真をアップしたり、保護者に情報を提供することができてよかった。 ○学校の公式ホームページで、日々の学校生活の様子が発信されている。地域住民にも開かれた学校として情報が伝わっている。地区回覧でも、学校だよりが公開されている。
保護者・地域との連携	①保護者や地域への積極的な情報発信や諸活動を通して学校、保護者、地域の連携に取り組んでいる。 ※授業参観、運動会等の学校行事、地域の人材活用、PTAとの連携等		A	A	A	○運動会の駐車場の整理では、保護者の協力により、スムーズに行うことができた。 ○2年生の町探検では、多くの保護者にボランティアとして参加していただいたおかげで安全に学習することができた。 ○学校の授業で保護者のサポートを呼びかけ、依頼が行われている。
教育環境整備	①施設の維持・管理・補修が適切に行われ、教材・教具・図書の整備を適切に行っている。			A	A	○理科室を定期的に整理し、使いやすい、いつでも使える理科室を心掛けた。 ○細かいところまで、修理や修繕を行ってくれる公仕さんに感謝したい。例えば、職員の下駄箱や石油庫のドアなど。 ○公仕さんが、施設の維持・管理・補修にすぐに対応してくださるので助かっている。ただ、ご負担も大きいことかと思う。そのことも忘れないようにしたい。 ○計画的に進められている。 ▲理科消耗品の管理と理科室の整頓を、意識して行ってきたが、他学年の理科室利用状況についての把握ができていなかった。

5 次年度へ向けて（学校評価を受けて）

- (1) 学習指導において、①「主体的・対話的で深い学び」の実践による学習意欲の向上。②指導と評価を一体化した授業の展開による「分かる授業」の実践。③主体的な学習習慣の確立。（家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実等）に努めているところである。アンケートの結果から、「各教科（国・社・算・理・生・外）の学習が好きな児童 82.4%（目標80%）」、「先生の授業は分かりやすい 93.2%（目標90%）」、「宿題や自主学習への取組 92.0%（目標80%）」と、目標値より高い結果を得ている。主体的・対話的で深い学びをさらに進めるとともに、自主学習等においても内容や質の向上がより図れるよう工夫していきたい。
- (2) 読書活動の充実（学校司書との連携、図書室の積極的な利用）と家読の推奨について、学校全体で取り組んできた。児童アンケートでは、「本を読むことが好きな児童 81%（目標80%）」という結果が得られたが、保護者アンケートでは、「本に親しんでいる 57.1%」と低い結果であった。学校では図書室の利用も盛んであるので、家庭でも本に親しめるよう、更なる啓発に努めていきたい。
- (3) 地域素材を生かした体験活動を通して、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めてきた。アンケートでは、「将来の夢やなりたい自分がある児童 89.0%（目標80%）」と、目標値よりも高い結果を得ている。
また、今年度は次年度開始のコミュニティ・スクールを踏まえ、例年夏休み中に実施していたワークショップの内容を教科や特別活動の授業で活用することにより、地域の教育力をより多くの児童にふれさせるということに取り組んできた。今後は、より内容を吟味し、子供たちの資質向上へとつなげていきたい。
- (4) 「学業指導の充実に向けて」（県教委）に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を進めてきた。場に応じた言葉遣いや振る舞いなど、継続的な指導により身に付きつつあるが、児童によって規範意識に差がある。何気ない場面での友達の名前の呼び方や言葉遣い等、全校体制で取り組んでいきたい。
- (5) 体力向上プログラムを活用し、継続的に個に応じた体力づくりの推奨に努めてきた結果、本年度は、新体力テストでB判定以上の児童が41%と、目標値を達成することができた。朝の会時の1分間運動や体力アップカードの活用など、多様なアプローチで体力づくりを実施しているが、休み時間等の自主的な体力づくりは十分には浸透していないのが現状である。児童の意識をさらに高められるよう、指導や言葉掛けの工夫を図っていきたい。
- (6) 効率のよい業務を行うよう努めてきたが、勤務時間外にも業務を行う教職員が少なくないのが現状である。日課表の見直しや校務の均等化、下校指導の見直しなど、放課後の業務時間の確保に努め、余裕をもって児童指導を行えるよう新たな手立てを実施していきたい。